

## 事業報告書

「男らしく」「女らしく」より「自分らしく」がいいね in 南大東村（出前講座）	
日時	2017/10/13（金）18:00~20:00
対象	関心のある方
講師	沖縄キリスト教学院大学 人文学部長 新垣 誠氏
主催	沖縄県・公益財団法人おきなわ女性財団
共催	南大東村
会場	南大東村多目的交流センター 1F
定員	30名
参加者数	29名（男性：11名 女性：18名）
開催目的	本講座は、受講者が日常生活におけるジェンダーに気づき、更にジェンダーの背景にある社会的構造について学び、各地域の特徴を生かした男女共同参画推進条例及び行動計画策定に向けた支援や、今まで以上に男女平等の推進を図ることを目的とし県下各市町村で開催するもの。
講演内容 （概要）	<p>沖縄キリスト教学院大学教授 新垣 誠氏が南大東村に出向いてのジェンダー教室。</p> <p>冒頭、伊佐副村長より男女間の格差を表すジェンダーギャップ指数で、日本が144カ国中111位であったというショッキングな数字をもとにジェンダーについて考えることの重要性が語られ、その後講座が始まった。</p> <p>講師はユーモアたっぷりの軽妙な語り口でさまざまな映像資料を使用しながら、私たちは皆、幼い頃から「男としてこうあるべき」「女としてこうあるべき」として、実に様々なことを家庭、社会、メディアなどからすりこまれており、それは「ジェンダー規範」であることを説明。社会情勢の変化が著しい現代社会では、このジェンダー規範が女性と男性の双方、特に最近では男性をより一層苦しめているのではないかとその事例や資料が紹介され、受講者はグループ討議で自由な議論を交わすなどしながら積極的に受講していた。</p> <p>男女共同参画社会においてキーワードとなるのは「人権」であること、全ての制度や政策づくり意思決定のプロセスにおいて女性の目線が重要であること、その延長線上に、お互いを支え合うみんなにとって幸せな社会、よりよい南大東村があり、その中では誰もが「自分らしくいられる安心」と「自分の能力を活かす活力」を得られるであろうことなどがアツク語られた。</p>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>伊佐 隆夫副村長</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>新垣 誠氏</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>受講風景</p> </div> </div>
参加者の声 （抜粋）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭で男女協力して生活している中で幸せに過ごしている。お互いに理解しているというよりお互いの生き方を認めているところはいいのかもと感じた。</li> <li>・男だから、女だから…ではなく「あなたはあなた」「世界にひとり」ということだと思う。</li> <li>・自分らしくいきることのよさについて楽しく考えさせられました。</li> <li>・久しぶりの楽しい講話でした。聞く側（参加者）の意見をよく取り入れた話術はすごいと思いました。機会があればまた参加したい！</li> </ul>